

平成26年度事業報告

自 平成26年4月 1日

至 平成27年3月31日

1 事業概要

平成26年度は、年度当初より、PEDの発生、全県的な蔓延に晒され、発生農家延148戸、発生頭数約16万2千頭、死亡頭数約4万3千頭と甚大な被害を蒙りました。

そのため、養豚関係者等の集会等がままならず、予定されていた総会・会議等の延期・中止、千葉県肉豚共進会等のイベントも中止を余儀なくされました。

それに加え、消費税率のアップ、急激な円安による飼料や生産資材の高騰・高止まり状態、TPP交渉等国际間貿易の先行き不透明感等や周辺諸国における悪性伝染病の続発も重なり、畜産を取り巻く環境は大変厳しく、著しく畜産の経営基盤を圧迫しました。

なお、養豚関係者長年の念願でありました「養豚農業振興法」の制定、飼料用米や畜産クラスター関連事業等の各種畜産振興施策の推進など明るい兆しも垣間見られました。

このような状況の中、当協会は県民・消費者と畜産経営者、関係団体・行政機関等との密接な連携に努め、安全で信頼される県産畜産物が安定的に供給されますよう、畜産経営安定対策や家畜・畜産物の衛生対策、飼養管理や経営技術等生産性の向上、畜産及び畜産物への理解醸成・消費拡大事業等、様々な事業に取り組んでまいりました。

また、ナイスポークチバ推進協議会等の各種団体の事務局を務め、円滑な団体運営・事業推進に努めるとともに、新たに設立された団体につきましても、事務局を引き受けるなど積極的に関係各位の要請に応じてまいりました。

なお、補助事業や委託事業等の減少のため協会運営が引き続き極めて厳しいことから、職員の削減及び給与削減の継続等協会運営経費の節減や事務の効率化に努めてまいりました。

2 会員及び役職員の構成（平成27年3月31日現在）

（1）会員

区 分	計
県域畜産団体	21
市町村	51
自衛防疫組織	50
農協・会社等	29
生産者組合等	16
賛助会員	5
合計	172

（2）役員

（単位：名）

会長	副会長	専務理事	理事	監事	計
1	5	1	10	3	20

（3）職員

（職種別）

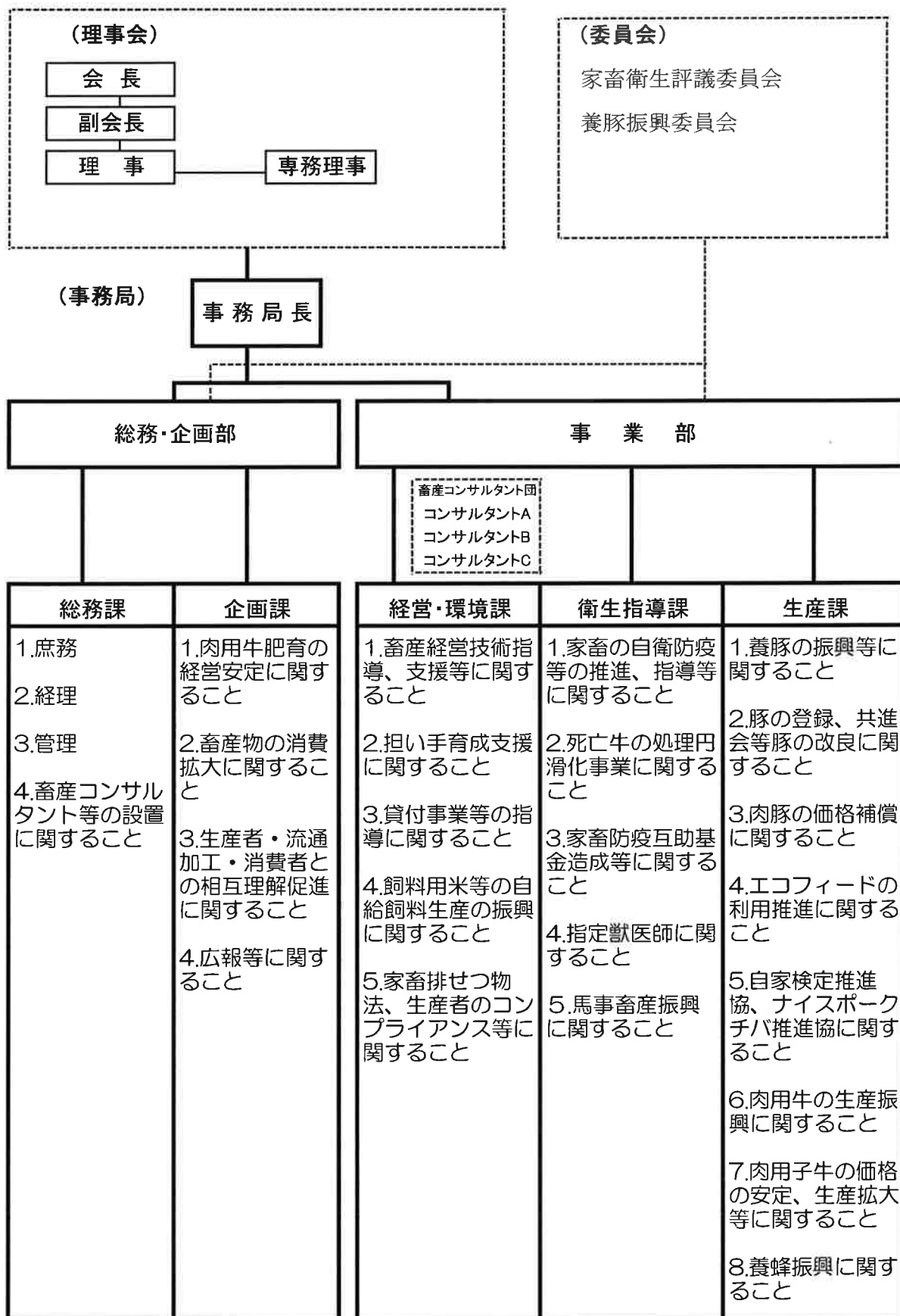
（単位：名）

区分	総括畜産 コンサルタント	畜産 コンサルタント	技術職員	臨時職員	合計
人数	6	4	1	5	16

（所属別）

（単位：名）

区分	職員	嘱託及び 臨時職員	合計
専務理事・事務局長	2	—	2
総務・企画部	4	2	6
事業部	3	5	8
合計	9	7	16



3 会議の開催

(1) 監事会

期 日	場 所	内 容
平成26年6月5日	K & T 千葉ビル	平成25年度業務の執行状況及び収支決算について

(2) 理事会

期 日	場 所	内 容
平成26年6月9日	ホテル「ラザ」菜の花	1) 平成25年度事業報告並びに貸借対照表、損益計算書及び財産目録について 2) 会員の退会について 3) 平成26年度会費の額及び徴収方法について 4) 役員の改選について 5) 諸規程の一部改正について 6) 肉用牛肥育経営安定特別対策事業に係る業務方法書の一部改正について 報告事項 代表理事及び業務執行理事の職務執行状況について
平成26年6月23日	ホテル「ラザ」菜の花	1) 会長、副会長、専務理事の互選について
平成27年3月16日	ホテル「ラザ」菜の花	1) 平成27年度事業計画及び収支予算について 2) 平成27年度借入金最高限度額及び借入先の決定について 3) 会員の入退会について 4) 諸規程の一部改正について 5) 肉用子牛生産者補給金制度に係る次期業務対象年間について 報告事項 代表理事及び業務執行理事の職務執行状況について

(3) 総 会

期 日	場 所	内 容
平成26年6月23日	ホテル「ラザ」菜の花	報告事項 1 平成25年度事業報告について 2 平成26年度事業計画並びに収支予算について 議案

		1) 平成25年度貸借対照表、損益計算書及び財産目録について 2) 平成26年度会費の額及び徴収方法について 3) 役員の改選について
--	--	---

(4) 家畜衛生評議委員会

期 日	場 所	内 容
平成26年6月4日	ホテルラザ菜の花	1) 平成25年度家畜衛生業務関係事業の実績について 2) 平成26年度家畜衛生業務関係事業の計画について 3) 家畜衛生業務に係る指定獣医師の諮問について 4) 国及び県の主な家畜衛生対策事業の実施状況について 5) その他
平成27年3月9日	ホテルラザ菜の花	1) 平成26年度家畜衛生業務関係事業の実施状況について 2) 平成27年度家畜衛生業務関係事業の主な計画について 3) 市町村等自衛防疫活動支援事業について 4) 牛病及び豚病のワクチン接種に係る農家負担金について 5) その他

(5) 養豚振興委員会

期 日	場 所	内 容
平成26年7月28日	千葉県森林会館	1) 平成26年度千葉県肉豚共進会について 2) 平成26年度養豚経営安定対策事業（全国肉豚）について 3) 原種豚の認定及び助成について 4) 系統造成豚について 5) ナイスポークチバ推進協議会の活動について 6) その他

(6) 定例会議

原則として、毎月末に常勤役職員による定例会議を開催し、翌月以降の事業の計画的な推進と進捗状況の確認及び業務の円滑化・効率化に努めた。

I 畜産経営を支援する事業

1 地域畜産支援指導等体制強化事業（地方競馬全国協会）**公益**

地方競馬全国協会からの補助金を得て、①畜産の担い手育成・確保・増強に向けた体制強化を図る事業、②地域畜産に対する理解増進等畜産関連公益活動体制の強化を図る事業、③馬事・畜産普及啓発の推進体制の強化を図る事業に係る3事業を実施した。

2 畜産コンサルタント等設置事業（県）**公益**

畜産経営の経営改善を図るため、組織活動支援を含めた経営改善指導を実施した。

3 会報誌編集発行事業（協会単独）**その他**

畜産の生産から流通・消費に関する最新情報を、協会の情報誌「畜産ネットワークちば」を3回（第30号～32号 各2,000部）発行し、協会会員はじめ関係機関、団体に配布し畜産経営の支援等に資した。

4 地域畜産総合支援体制整備事業（県）**公益**

畜産経営の安定化に資するため、県及び関係機関・団体の協力を得て、畜産経営体に対する支援指導を行った。

(1) 畜産コンサルタント団の設置

区 分	総括畜産 コンサルタント	畜 産 コンサルタント	非常勤畜産 コンサルタント	フォローアップ 指導員
人数（名）	5	2	32	11

(2) 畜産経営体支援指導研究会

畜産経営技術等の支援指導・畜産経営状況調査を効果的に行うための具体的な指導内容・手法等を検討する総合委員会及び専門委員会を下記のとおり開催した。

① 総合委員会：平成26年7月10日

② 専門委員会：平成26年7月10日、平成27年1月20日、
平成27年1月21日、平成27年1月22日

(3) 畜産経営技術指導用機器の整備

畜産経営体の支援指導を効果的かつ効率的に行うため、経営支援用パーソナルコンピュータをリースした。

(4) 畜産経営技術の支援指導

畜産経営体等からの要請内容・経営水準・実態等に応じ、経営改善のための効果的な支援指導を次のとおり実施した。

① 個別支援指導

畜産経営体に対する経営診断改善指導・経営管理技術指導・生産技術指導・フォローアップ指導等下記のとおり実施した。

項 目	経営診断 改善指導	経営管理 技術指導	生産技術 指 導	フォローアップ 指 導	計
戸数(戸)	20 (酪農)			10 (酪農)	25
件数(件)	20	20	20	30	90

② 地域支援指導

畜産経営技術に関する研修・意見交換等を行う場としての経営セミナー等を10回(参加者:389人)開催し、地域の経営体集団に対して経営改善のための支援を行った。

指導実績	開催期日	開催 場所	人数 ()は聴	内 容
①酪農講習会 (海匠地域)	平成26年 6月23日	旭 市	22人 (8人)	① 牛群検定成績を利用したベンチ マーキング 県農業共済連 清水 秀茂 ② 牛群検定と繁殖台帳 Web システ ム 家畜改良事業団 板橋 完
②ちば畜産レ ィスネットワーク研 修会 (県 域)	平成26年 7月1日	東金市	33人 (12人)	○ 意見交換・情報提供
③耕畜連携研 修会 (香取地域)	平成26年 7月2日	香取市	73人 (49人)	① 稲 WCS の栽培技術 香取農業事務所 清宮 宏貞 ② 高品質稲 WCS 生産・利用拡大に向 けた取り組み 畜産草地研究所 浦川 修司 ③ 香取地域における稲 WCS の需要 と供給状況について 香取農業事務所 岸田 雅弘
④稲 WCS 現地 研修会 (山武地域)	平成26年 7月24日	東金市	60人 (15人)	① 良質なエサにする WCS 用イネの 収穫調製と飼料用品種 畜総研 細谷 肇 ② 稲 WCS の給与技術(乳牛中心に) 畜総研 石崎 重信

⑤酪農研修会 (安房地域)	平成 26 年 7 月 30 日	南房総 市	23 人 (13 人)	① 気付きと共有から始まる経営発展の仕組みづくり 全酪連購買部 丹戸 靖 ② 生乳処理室・牛舎の美化・衛生による「牛乳の価値向上」の取り組み 株式会社明治 柳 雄太
⑥ながいきファームフェスタ (長生地域)	平成 26 年 9 月 27 日	茂原市	54 人 (25 人)	○ 酪農家と消費者との意見交換
⑦TMR 研修会 (香取地域)	平成 26 年 10 月 2 日	香取市	23 人 (5 人)	① 耕畜連携で高品質 TMR 生産 ファームサポートかとり 長嶋 透
⑧自給飼料研修会 (印旛地域)	平成 26 年 12 月 12 日	佐倉市	26 人 (4 人)	② 袖ヶ浦市におけるツインロー栽培及びトウモロコシ 2 期作栽培現地試験 君津農業事務所 大塚 洋功 ② 千葉県における飼料用トウモロコシの二期作栽培の可能性について 畜総研 青木 大輔
⑨酪農経営セミナー (県域)	平成 27 年 2 月 25 日	千葉市	60 人 (8 人)	① 川中から見た日本の畜産 スターゼン 梅津 準士 ② 実例で見る酪農家の 6 次産業化の進め方 金子牧場 金子 秀之 6 次産業プランナー 伊能 賢一
⑩酪農セミナー (県域)	平成 27 年 3 月 26 日	千葉市	15 人 (2 人)	① BSE 再考 NPO 法人いきいき畜産ちば サポートセンター 長岡 正二

(5) 畜産経営関係情報のデータベースの整備

畜産経営体に対する効果的な支援指導を行う目的で、畜産関係情報のホームページによる提供を行った。

また、中央畜産会の開発した大家畜データベース（酪農経営・肉用牛経営情報の有効活用）を維持管理し、加入等の問い合わせに対応した。

なお、経営改善指導の一助に月刊誌「畜産コンサルタント」（（公社）中央畜産会発行）を毎月、3機関に有償配布した。「畜産会経営情報」（（公社）中央畜産会発行）を毎月、86団体に配布した。

5 貸付事業指導等事業（（公財）畜産近代化リース協会）**その他**

畜産近代化リース協会からの畜産機械、施設等の借受者を対象にその効果的利用を促進するため、再貸付団体の協力を得て、58基について確認調査並びに指導を実施した。

1 再貸付団体

No.	再貸付団体名	生産者数	No.	再貸付団体名	生産者数
1	県みるく農協	11	8	千葉県三和酪農協	12
2	県みるく農協中央支所	5	9	東金酪農協	1
3	県みるく農協東部支所	3	10	西葉酪農協	1
4	県みるく農協南部支所	2	11	長生酪農協	1
5	千葉北部酪農協	3	12	新生酪農クラブ	1
6	八千代酪農協	4	13	全農千葉県本部	4
7	千葉酪農協	3	計		51

2 貸付施設等

No.	貸付施設区分	調査数
1	自給飼料生産利用機械施設	18
2	生乳生産合理化施設	27
3	畜舎環境改善機械施設	13
計		58

6 畜産特別資金等推進指導事業（（公社）中央畜産会）**公益**

大家畜改善緊急支援資金、大家畜緊急支援資金、養豚改善緊急支援資金及び養豚経営緊急支援資金借受者の経営改善に資するため、年2回の県支援協議会（本協会事務局）を開催するとともに、現地調査等を実施し、経営改善方策等について検討の上、借入者に対する助言指導を行った。

また、現地調査指導等は生産者並びに融資機関を対象に行い、現状の問題点等について聞き取り助言指導を行った。

緊急支援7経営（肉用牛1、養豚6）

改善緊急支援（酪農1、肉用牛1、養豚2）

7 肉用牛経営安定対策補完事業（（独）農畜産業振興機構）**公益**

肉用牛繁殖基盤の強化を目的とし、地域の中核となる担い手育成のための繁殖雌牛増頭のための奨励金の交付、肉用牛ヘルパー活動推進（削蹄、出荷、飼料収穫、除角など）を推進した。

中核的担い手育成増頭対策	千葉県肉牛生産農業協同組合 増頭奨励金 20頭
肉用牛ヘルパー活動推進	3カ所（安房・市原・香取）各肉用牛ヘルパー利用組合の飼養管理、削蹄補助、出荷ヘルパー等の利用の推進

8 エコフィード・TMRコーディネート推進事業（県）公益

配合飼料価格の高止まりから食品廃棄物の利活用に向けた関心の高まりとともに利用度もかなり進みつつあるが、原料も多岐に亘り、畜種毎にその利用状況も異なることから、食品残さの資源がエコフィードやTMR原料として、十分活用がなされていない状況にある。

このような状況を少しでも改善するため、コーディネーターを設置し、地域における食品搬出業者、エコフィード製造施設、生産者、関係者との情報交換により未活用資源の発掘とその利用を推進し、千葉県畜産の生産性の向上と飼料自給率の向上を図った。

9 災害時緊急対応型システム畜舎確立事業（（公社）中央畜産会）公益

畜産業において、飼養方法に合せた建築の自由度を残しつつ、建築の規格化（システム化）を行い、国土交通省の建築基準法に基づく形式認定を取得することで、何時でも何処でも迅速かつ安価な畜舎建築を実現する、革新的な「システム畜舎」の建築技術の確立に資するため、システム畜舎の設計について、畜種・飼養管理方法、地域性に応じた畜舎構造についての地域の農家や建築士との意見交換やアンケート調査等を実施した。

肉用牛繁殖検討会 1回

Ⅱ 家畜衛生向上に関する事業

1 家畜生産農場清浄化支援対策事業（国庫・公募事業）公益

オーエスキー病の清浄化対策及び予防接種によるアカバネ病等の発生・流行防止対策を推進し、自主的な家畜防疫意識の向上及び家畜の損耗防止を図り、もって畜産の健全な発展に努めた。

（1）オーエスキー病清浄化支援対策事業

① ワクチン接種の推進

農場の抗体検査による清浄度がステータスⅡにある地域を対象に全戸、全頭接種を推進するため、ワクチン接種に対し助成した。

② 清浄性確認抗体検査

農場の清浄度を把握する抽出検査及び繁殖豚全頭検査を推進するため、家畜保健衛生所、農済連家畜診療所及び民間検査機関の行う抗体検査に対し助成した。

③ 感染豚のとう汰促進

感染豚摘発農場における感染豚のとう汰を推進するため、感染豚のとう汰に対し助成した。

オーエスキー病ワクチン接種・検査等実績

年度	ワクチン接種	清浄性確認検査	感染豚とう汰	備考
26	1,338,800 頭	5,498 頭	376 頭	
25	1,462,540 頭	6,834 頭	1,262 頭	

（2）疾病発生・流行防止支援対策事業

牛の異常産の発生・流行を防止するため、下記のワクチン接種について助成した。

年度	アカバネ病（生）	異常産（3種混合）	備考
26	4,639 頭	9,353 頭	
25	4,836 頭	9,840 頭	

2 家畜防疫互助基金造成等支援事業（(独)農畜産業振興機構）公益

畜産経営に甚大な影響を及ぼす海外悪性伝染病（口蹄疫・牛肺疫・牛疫・アフリカ豚コレラ・豚コレラの5疾病）の発生に備え、牛及び豚飼養者による互助基金の造成を支援し、万一の発生に際して同額の補助金（(独)農畜産業振興機構助成）を加えた互助金を交付し、損害及び経営再建への支援を図るものである。

本年度は3年目（平成24～26年度までの3か年）にあたり、引き続き基金設計額の確保に向け、加入促進に努めた。

今期（平成24～26年度）の加入状況

年度	牛			豚		
	戸数	頭数	基金造成額	戸数	頭数	基金造成額
～26	749戸	68,098頭	12,765,320円	199戸	567,833頭	32,507,080円
前期	778戸	71,363頭	4,052,040円	205戸	556,739頭	20,171,930円

3 死亡牛緊急検査処理円滑化推進事業（国庫・公募事業）公益

BSE検査が必要な24ヶ月齢以上の死亡牛の円滑・適正な処理を推進するため、死亡牛の発生農場から化製場までの輸送費及び焼却処理経費の一部を助成した。

なお、死亡牛頭数は飼養頭数の減少、夏場の気温（残暑）、疾病の早期発見・治療等の影響により約100頭減少した。

平成26・25年度別死亡牛発生頭数等

年度	対象農家数	飼養頭数(24月以上)	死亡牛発生頭数	発生率
26	1,145戸	33,460頭	1,276頭	3.81%
25	1,186戸	36,756頭	1,369頭	3.72%

4 馬飼養衛生管理特別対策事業（（公社）中央畜産会）その他

馬の生産、流通の国際化等に伴い馬インフルエンザ等の侵入、流行の危険性が高いことから、競走馬以外の馬の獣医療実態調査、飼養衛生管理技術講習会等を行い、馬防疫の意識向上に努めた。

- (1) 馬飼養衛生管理体制整備委員会の開催 1回 9名出席
 日時：平成26年10月16日(木) 場所：ホテル「サザ菜の花」（千葉市）
- (2) 馬飼養衛生管理技術講習会の開催 1回 38名出席
 日時：平成27年1月29日(木) 場所：千葉市生涯学習センター（千葉市）
 演題・講師
 ① 馬の飼養管理（栄養管理）と運動器疾患について
 講師：JRA 馬事部 防疫課 係長 南 卓人
- (3) 馬獣医療実態調査（2か年継続）
 乗馬クラブ等の馬飼養者を対象に「馬飼養衛生管理基準に基づく衛生管理区域の設定状況による予防衛生対策及び伝染性疾患の清浄化等に関する調査」を実施した。
 調査対象戸数94戸、回答戸数55戸（58.5%）から回答が得られた。

5 育成馬等予防接種推進事業（（公社）中央畜産会）その他

馬飼養の集団化、多様化及び煩雑な移動等の実態を踏まえ競走用育成馬等について予防接種の徹底を図るため、下記のワクチン接種に対して助成し、

馬防疫の推進に努めた。

年度	3種混合ワクチン			馬インフルエンザワクチン				日本脳炎 ワクチン	計
	1歳馬	2歳馬	計	1歳馬	2歳馬	繁殖牝	計	2歳馬	
26	6頭	40頭	46頭	28頭	22頭	5頭	55頭	26頭	127頭
25	25頭	71頭	96頭	40頭	24頭	26頭	90頭	44頭	230頭

6 生産段階における防疫強化支援事業

(馬インフルエンザ等防疫強化特別対策事業) ((公社) 中央畜産会) **その他**

馬生産地における競走馬以外の乗用馬等を対象に馬インフルエンザワクチンの接種及び競走用繁殖牝馬を対象に馬鼻肺炎ワクチンの接種に対して助成し、馬防疫の推進に努めた。

また、在来馬等飼養・衛生状況実態調査（10カ所）等を実施した。

年度	馬インフルエンザワクチン	馬鼻肺炎ワクチン
26	681頭（乗用馬 681頭、小格馬等 - 頭）	6頭（2頭×3回接種）
25	693頭（乗用馬 642頭、小格馬等 51頭）	30頭（10頭×3回接種）

7 地域自衛防疫強化特別対策事業（家畜衛生対策推進協議会）**その他**

生産現場における自衛防疫体制の強化を図るため、生産者段階での防疫演習を実施するとともに、特定疾病（牛白血病）の感染拡大防止対策調査を実施し、自衛防疫の推進に努めた。

区分	行事名等	実施月日	実施場所	概要
①早期緊急自衛防疫対策	高病原性鳥インフルエンザ防疫演習（県演習に共催）	10月29日 AM9:00～	長柄町民体育館 房総ファーム・鳥越農場	参加者 202名 内生産者等 17名
②特定疾病拡大防止支援対策	牛白血病感染拡大防止対策調査	随時	酪農：1戸 （南部家保管内）	初乳加温処理等の対策効果を調査

8 農場HACCP認証普及推進支援対策事業（(公社) 中央畜産会）**公益**

農場HACCPの普及促進を図るため、農場HACCP推進農場の指定及び認証農場の認証に向けて取組む農場に対して、技術指導者を派遣するなど効果的な支援・指導に努めた。

- (1) 構築指導推進・効果等支援：酪農1農場、養豚8農場、採卵鶏3農場
- (2) 農場HACCP指導員：10名（NPOいきいき畜産ちばサポートセンター）
- (3) 指導回数：延109回

9 農場HACCP認証審査体制基盤緊急整備事業

((公社)中央畜産会) **公益** 新規

公益社団法人中央畜産会の委託を受け、県内における農場 HACCP 認証基準に基づいた、農場HACCPの構築に取り組む農家に対して、専門家による農場HACCPの認証制度の普及及び認証農家における成果の検証を行い、地域に農場 HACCP 取組の中核となる農家への支援に努めた。

- (1) 認証制度説明会 2回 延75名受講
- (2) 認証農場の成果の検証 認証農場(旭市 I 養豚場)
 - ①推進委員会3回
 - ②アンケート調査
 - ③千葉県における農場 HACCP 認証構築事例 発刊

10 野性獣衛生体制整備緊急対策事業

(家畜衛生対策推進協議会 事務局：中央畜産会) **その他** 新規

野性獣の被害低減対策のため、畜産分野での情報発信体制を地域に構築・整備するとともに、これらの野生獣の衛生実態を把握し、もって畜産経営の健全な発展に努めた。

- (1) 地域衛生技術連絡協議会：3回、現地衛生対策技術連絡協議会：1回
- (2) 野生獣の衛生実態等調査

シカ：10頭6項目(E型肝炎、サルモネラ感染症、カンピロバクター感染症、0-157、トキソ抗体検査、日本脳炎)

イノシシ：10頭6項目(AD、トキソ抗体検査、豚丹毒抗体検査、PED中和抗体、日本脳炎、豚パルボ)

11 市町村等自衛防疫活動支援事業(協会単独) **公益**

当協会で実施する家畜衛生業務の円滑かつ的確な推進を図るため、市町村家畜防疫協会等の行う自衛防疫活動に対して支援・指導の推進に努めた。

(活動支援助成金交付先)

- ①市町村家畜防疫会49団体
- ②地域家畜防疫獣医師会等3団体及び千葉県獣医師会

12 特定疾病損耗防止事業(協会単独) **公益**

下記疾病に対して予防接種を推進した。

区 分	26年度	25年度
アカバネ生及び3種混合	56頭	30頭
伝染性鼻気管炎5種・6種混合	2,408頭	2,375頭
オーエスキー病	3,890頭	6,460頭
豚丹毒(生)	2,800頭	2,422頭
豚日脳(生)及び日脳・パルボ混合	328頭	424頭

13 養鶏研修会（協会単独）公益

養鶏経営において最大の関心事にある「最近の高病原性鳥インフルエンザの発生状況について」と鶏の飼養管理を行う上で、欧州を中心に国際的潮流へと進展の見られる「世界のアニマルウェルフェア、卵の情勢」について、養鶏農家及び関係機関・団体・業者等を対象に専門家から研修し、養鶏振興の一助に資した。

（研修会概要）

- ・開催日時：平成26年11月13日（木）午後1時30分から
- ・開催場所：ホテル プラザ菜の花

演題1：最近の高病原性鳥インフルエンザの発生状況について

講師－独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構 動物衛生
研究所 インフルエンザ・プリオン病研究センター センター長 西藤 岳彦

演題2：世界のアニマルウェルフェア・卵の情勢

講師－麻布大学 獣医学部 動物応用科学科 動物資源経済学研
究室 教授 大木 茂

- ・出席者：養鶏農家及び関係機関・団体等82名
- ・共催及び後援機関・団体：10団体

Ⅲ 畜産の活性化を進める事業

1 畜産関係団体調整機能強化事業（（公社）中央畜産会）**その他**

畜種を越えた畜産に携わる女性の集まり「ちば畜産レディースネットワーク」の活動を支援した。

また、本県の畜産・畜産物の理解と消費拡大を図る「千葉県畜産フェア」及び地方競馬の振興のため千葉県畜産賞（冠レース）を船橋競馬場で実施した。

2 畜産フードチェーン連携推進事業（協会単独）**公益**

消費者の県産畜産物に対する理解促進を図るため、県産豚肉を使った加工体験教室（ウインナー作り）を市町村及び関係団体の協力により印西市花の丘公園で親子を対象に実施した。

また、畜産物を生産する地域の畜産農家と消費者・流通業者との交流を香取市等において行い畜産に対する理解を図った。

3 畜産フェア（協会単独）**公益**

消費者に千葉県の畜産・畜産物に理解を深めて頂くため、第8回目の畜産フェアを10月4日（土）船橋競馬場ふれあい広場において開催した。

県内畜産関係の28団体が出展し、県内の畜産の現状、牛乳、牛肉、豚肉、卵等試食販売、骨密度測定を行いました。また、来場者には県内の畜産品等を試食して頂き、協賛いただいた団体から参加者に豪華な畜産品をプレゼントした。

IV 畜産物の品質向上を図る事業

1 養豚改良対策事業 その他

登記登録を含めた業務を通じ本県の豚の改良推進と強化を図った。

1) 登録事業（協会単独）

優良種豚改良の基本となる登録を（一社）日本養豚協会登録規定に基づき実施した。

種豚登録 188頭、子豚登記 179頭、一代雑種血統証明 24頭
産子検定 47頭、肉豚証明 420頭、移動証明 14頭

2) 優良種豚場認定事業（（一社）日本養豚協会）

農家戸数の減少、規模拡大に伴い種豚の供給を担うブリーダーの役割は限定されてきている状況にある。

厳しい生産現場の状況を考えると、より能力（繁殖性・産肉性）の高い種豚の改良・確保が最も重要であることから、種豚の生産基盤強化と登録事業の推進を図るため（一社）日本養豚協会認定規定に基づく認定により育成強化を図った。 遺伝資源保存指定種豚場 5場

3) 原種豚認定事業（協会単独）

（一社）日本養豚協会指定種豚場を対象とした事業として、本県純粋種豚の改良、資源確保のため本事業により助成・強化推進を図った。

認定農場に対する助成 4農場

血統能力の証明に対する助成

種豚登録 79頭・子豚登記 61頭

2 千葉県産オリジナル豚肉生産体制強化事業（県）その他

（1）系統豚相性診断事業

本県で現在開発中のランドレース種の系統豚の能力を最大限に活かせる経済効率の高い相性の良い大ヨークシャー種とデュロック種の最適な組合せを見つけるために、養豚現場で相性診断を実施した。

ランドレース種 調査農場 2場 4腹

LW種 調査農場 5場 18腹

（2）系統豚維持増殖推進事業

本県で作出したボウソウル3と系統造成中のランドレース種を取り入れた繁殖豚の普及を図るため、能力の優れた繁殖素豚の選抜、さらには繁殖豚の個体能力を客観的に評価するため繁殖能力等の調査を実施した。

調査農場 4場 繁殖能力調査 36腹・調査子豚数 141頭

選抜頭数 131頭

V 畜産経営の安定化を図る事業

1 肉用子牛生産者補給金制度（（独）農畜産業振興機構）公益

（１）肉用子牛生産者補給金交付に係る業務

肉用子牛生産安定等特別措置法に基づき、生産者補給金の交付等の事業を通じ、肉用子牛生産の安定と経営の健全な発展に努めた。

①平成２６年度生産者補給金交付契約締結者 ２２９人

②事務委託先契約締結数 １２件

１）契約肉用子牛の個体登録

（単位：頭）

区分 品種	平成 26 年 1 月 1 日～ 3 月 31 日	平成 26 年 4 月 1 日～ 6 月 30 日	平成 26 年 7 月 1 日～ 9 月 30 日	平成 26 年 10 月 1 日～ 12 月 31 日	計
黒毛和種	237	246	210	252	945
褐毛和種	—	—	—	—	—
その他肉専	1	1	2	2	6
乳用種	1,032	973	837	608	3,450
交雑種・乳	2,578	2,432	2,297	1,985	9,292
計	3,848	3,652	3,346	2,847	13,693

２）生産者積立金の積立額

品 種	契 約 頭 数 (頭)	積 立 単 価 (円)	積 立 額 (円)	負 担 区 分 (円)		
				農畜産業 振興機構	千葉県	生産者
黒毛和種	945	2,200	2,079,000	1,039,500	519,750	519,750
褐毛和種	—	—	—	—	—	—
その他肉専	6	24,400	146,400	73,200	36,600	36,600
乳用種	3,450	12,700	43,815,000	21,907,500	10,953,750	10,953,750
交雑種・乳	9,292	5,000	46,460,000	23,230,000	11,615,000	11,615,000
計	13,693	—	92,500,400	46,250,200	23,125,100	23,125,100

3) 生産者補給金交付状況

(単位：円、頭)

区 分	保証基準価格の品種区分		黒毛和種	その他肉専	乳用種	交雑種・乳	合 計
平成 26 年 1 月 1 日 ～ 平成 26 年 3 月 31 日	交付対象 頭数 ①	販売	-	-	-	-	-
		保留	-	-	-	-	-
		合計	-	-	-	-	-
	②生産者補給金単価		-	-	-	-	-
	③生産者補給交付金額(①×②)		-	-	-	-	-
	交付対象生産者数		-	-	-	-	-
平成 26 年 4 月 1 日 ～ 平成 26 年 6 月 30 日	交付対象 頭数 ①	販売	-	-	-	-	-
		保留	-	-	-	-	-
		合計	-	-	-	-	-
	②生産者補給金単価		-	-	-	-	-
	③生産者補給交付金額(①×②)		-	-	-	-	-
	交付対象生産者数		-	-	-	-	-
平成 26 年 7 月 1 日 ～ 平成 26 年 9 月 30 日	交付対象 頭数 ①	販売	-	-	-	-	-
		保留	-	-	-	-	-
		合計	-	-	-	-	-
	②生産者補給金単価		-	-	-	-	-
	③生産者補給交付金額(①×②)		-	-	-	-	-
	交付対象生産者数		-	-	-	-	-
平成 26 年 10 月 1 日 ～ 平成 26 年 12 月 31 日	交付対象 頭数 ①	販売	-	-	-	-	-
		保留	-	-	-	-	-
		合計	-	-	-	-	-
	②生産者補給金単価		-	-	-	-	-
	③生産者補給交付金額(①×②)		-	-	-	-	-
	交付対象生産者数		-	-	-	-	-
合 計 平成 26 年 1 月 1 日 ～ 平成 26 年 12 月 31 日	交付対象 頭数 ①	販売	-	-	-	-	-
		保留	-	-	-	-	-
		合計	-	-	-	-	-
	②生産者補給金単価		-	-	-	-	-
	③生産者補給交付金額		-	-	-	-	-
	交付対象生産者数		-	-	-	-	-

2 肉用牛繁殖経営支援事業（(独)農畜産業振興機構）公益

肉用子牛生産者補給金制度を補完し、子牛価格が発動基準を下回った場合に支援交付金を交付することで、肉用牛繁殖基盤の安定に努めた。

1) 支援交付金交付状況

区 分	品種区分	交付対象		支援交付金交付申請	
		人数 (人)	頭数 (頭)	単価 (頭/円)	交付申請額 (円)
平成 26 年度 第 1 四半期 (平成 26 年 4～6 月分)	黒毛和種	-	-	-	-
	褐毛和種	-	-	-	-
	その他の肉専用種	-	-	-	-
	小 計	-	-	-	-
平成 26 年度 第 2 四半期 (平成 26 年 7～9 月分)	黒毛和種	-	-	-	-
	褐毛和種	-	-	-	-
	その他の肉専用種	1	1	29,400	29,400
	小 計	1	1	-	29,400
平成 26 年度 第 3 四半期 (平成 26 年 10～12 月分)	黒毛和種	-	-	-	-
	褐毛和種	-	-	-	-
	その他の肉専用種	-	-	-	-
	小 計	-	-	-	-
平成 26 年度 第 4 四半期 (平成 27 年 1～3 月分)	黒毛和種	-	-	-	-
	褐毛和種	-	-	-	-
	その他の肉専用種	-	-	-	-
	小 計	-	-	-	-
合 計	黒毛和種	-	-	-	-
	褐毛和種	-	-	-	-
	その他の肉専用種	1	1	-	29,400
	合 計	1	1	-	29,400

3 肉用子牛生産者補給金制度運営体制整備強化事業

((独) 農畜産業振興機構) 公益

1) 制度運営適正化推進事業

肉用子牛生産者補給金制度にかかる業務の適正な実施を図るため、全国統一電算処理システムによる業務の充実と事務委託先との個体登録個体識別及び販売・保留確認等の業務の委託により適正かつ円滑な実施に努めた。

2) 指定協会運営体制支援事業

生産者補給金制度の推進のための実施体制の確立と運営基盤の安定化のために、財政的支援を得て、協会運営の財政的基盤の強化を図り、肉用子牛生産者補給金制度の適正な運営に努めた。

4 肉用牛肥育経営安定特別対策事業（(独)農畜産業振興機構）公益

肉用牛肥育経営は、もと畜の導入から肥育牛の出荷まで一定期間を要し、かつ、生産費に占めるもと畜費の割合が大きいことから、もと畜価格と枝肉価格の水準によっては大幅な収益性の悪化が懸念される。

このため、契約生産者積立金及び独立行政法人農畜産業振興機構からの補助金をもって肥育安定基金を造成し、肥育牛補填金を交付することで肉用牛肥育経営の安定に努めた。

平成26年度 肉用牛肥育経営安定特別対策事業 補填金交付状況

期間	品種区分	免除の有無	交付対象		肥育牛補填金	
			人数 (人)	頭数 (頭)	単価 (頭/円)	交付額 (円)
4 月期	肉専用種	通常	-	0	0	0
		免除	-	0	0	0
		計	0	0	-	0
	交雑種	通常	-	898	36,700	32,956,600
		免除	-	8	27,500	220,000
		計	62	906	-	33,176,600
	乳用種	通常	-	366	44,300	16,213,800
		免除	-	80	33,200	2,656,000
		計	19	446	-	18,869,800
	小計	通常	-	1,264	-	49,170,400
		免除	-	88	-	2,876,000
		計	81	1,352	-	52,046,400
5 月期	肉専用種	通常	-	0	0	0
		免除	-	0	0	0
		計	0	0	-	0
	交雑種	通常	-	787	39,400	31,007,800
		免除	-	10	29,500	295,000
		計	53	797	-	31,302,800
	乳用種	通常	-	325	45,700	14,852,500
		免除	-	129	34,200	4,411,800
		計	21	454	-	19,264,300
	小計	通常	-	1,112	-	45,860,300
		免除	-	139	-	4,706,800
		計	74	1,251	-	50,567,100

期間	品種区分	免除 の有無	交付対象		肥育牛補填金	
			人数 (人)	頭数 (頭)	単価 (頭/円)	交付額 (円)
6 月 期	肉専用種	通常	-	213	2,900	617,700
		免除	-	3	2,100	6,300
		計	33	216	-	624,000
	交雑種	通常	-	663	63,500	42,100,500
		免除	-	7	47,600	333,200
		計	51	670	-	42,433,700
	乳用種	通常	-	344	48,900	16,821,600
		免除	-	115	36,600	4,209,000
		計	20	459	-	21,030,600
	小計	通常	-	1,220	-	59,539,800
		免除	-	125	-	4,548,500
		計	104	1,345	-	64,088,300
7 月 期	肉専用種	通常	-	306	5,900	1,805,400
		免除	-	5	4,400	22,000
		計	48	311	-	1,827,400
	交雑種	通常	-	808	72,500	58,580,000
		免除	-	5	54,300	271,500
		計	60	813	-	58,851,500
	乳用種	通常	-	351	54,300	19,059,300
		免除	-	57	40,700	2,319,900
		計	18	408	-	21,379,200
	小計	通常	-	1,465	-	79,444,700
		免除	-	67	-	2,613,400
		計	126	1,532	-	82,058,100
8 月 期	肉専用種	通常	-	254	24,200	6,146,800
		免除	-	9	18,100	162,900
		計	38	263	-	6,309,700
	交雑種	通常	-	676	67,200	45,427,200
		免除	-	2	50,400	100,800
		計	50	678	-	45,528,000
	乳用種	通常	-	323	58,800	18,992,400
		免除	-	25	44,100	1,102,500
		計	19	348	-	20,094,900
	小計	通常	-	1,253	-	70,566,400
		免除	-	36	-	1,366,200
		計	107	1,289	-	71,932,600

期間	品種区分	免除の有無	交付対象		肥育牛補填金	
			人数 (人)	頭数 (頭)	単価 (頭/円)	交付額 (円)
9 月期	肉専用種	通常	-	0	0	0
		免除	-	0	0	0
		計	0	0	-	0
	交雑種	通常	-	803	62,000	49,786,000
		免除	-	1	46,500	46,500
		計	56	804	-	49,832,500
	乳用種	通常	-	401	65,400	26,225,400
		免除	-	26	49,000	1,274,000
		計	21	427	-	27,499,400
	小計	通常	-	1,204	-	76,011,400
		免除	-	27	-	1,320,500
		計	77	1,231	-	77,331,900
10 月期	肉専用種	通常	-	0	0	0
		免除	-	0	0	0
		計	0	0	-	0
	交雑種	通常	-	960	33,400	32,064,000
		免除	-	0	25,000	0
		計	61	960	-	32,064,000
	乳用種	通常	-	393	64,200	25,230,600
		免除	-	19	48,100	913,900
		計	22	412	-	26,144,500
	小計	通常	-	1,353	-	57,294,600
		免除	-	19	-	913,900
		計	83	1,372	-	58,208,500
11 月期	肉専用種	通常	-	0	0	0
		免除	-	0	0	0
		計	0	0	-	0
	交雑種	通常	-	984	22,200	21,844,800
		免除	-	0	16,600	0
		計	61	984	-	21,844,800
	乳用種	通常	-	440	48,500	21,340,000
		免除	-	0	36,300	0
		計	18	440	-	21,340,000
	小計	通常	-	1,424	-	43,184,800
		免除	-	0	-	0
		計	79	1,424	-	43,184,800

期間	品種区分	免除 の有無	交付対象		肥育牛補填金	
			人数 (人)	頭数 (頭)	単価 (頭/円)	交付額 (円)
12 月期	肉専用種	通常	-	0	0	0
		免除	-	0	0	0
		計	0	0	-	0
	交雑種	通常	-	898	29,600	26,580,800
		免除	-	0	22,200	0
		計	66	898	-	26,580,800
	乳用種	通常	-	435	54,800	23,838,000
		免除	-	1	41,100	41,100
		計	19	436	-	23,879,100
	小計	通常	-	1,333	-	50,418,800
		免除	-	1	-	41,100
		計	85	1,334	-	50,459,900
1 月期	肉専用種	通常	-	0	0	0
		免除	-	0	0	0
		計	0	0	-	0
	交雑種	通常	-	683	25,700	17,553,100
		免除	-	0	19,200	0
		計	52	683	-	17,553,100
	乳用種	通常	-	323	61,900	19,993,700
		免除	-	0	46,400	0
		計	16	323	-	19,993,700
	小計	通常	-	1,006	-	375,468,000
		免除	-	0	-	0
		計	68	1,006	-	37,546,800
2 月期	肉専用種	通常	-	0	0	0
		免除	-	0	0	0
		計	0	0	-	0
	交雑種	通常	-	701	3,200	2,243,200
		免除	-	0	2,400	0
		計	55	701	-	2,243,200
	乳用種	通常	-	387	63,600	24,613,200
		免除	-	0	47,700	0
		計	16	387	-	24,613,200
	小計	通常	-	1,088	-	26,856,400
		免除	-	0	-	0
		計	71	1,088	-	26,856,400

期間	品種区分	免除 の有無	交付対象		肥育牛補填金	
			人数 (人)	頭数 (頭)	単価 (頭/円)	交付額 (円)
3 月期	肉専用種	通常	-	0	0	0
		免除	-	0	0	0
		計	0	0	-	0
	交雑種	通常	-	0	0	0
		免除	-	0	0	0
		計	0	0	-	0
	乳用種	通常	-	396	57,100	22,611,600
		免除	-	0	42,800	0
		計	21	396	-	22,611,600
	小計	通常	-	396	-	22,611,600
		免除	-	0	-	0
		計	21	396	-	22,611,600
合計	肉専用種	通常	-	773	-	8,569,900
		免除	-	17	-	191,200
		計	119	790	-	8,761,100
	交雑種	通常	-	8,861	-	360,144,000
		免除	-	33	-	1,267,000
		計	627	8,894	-	361,411,000
	乳用種	通常	-	4,484	-	249,792,100
		免除	-	452	-	16,928,200
		計	230	4,936	-	266,720,300
	小計	通常	-	14,118	-	618,506,000
		免除	-	502	-	18,386,400
		計	976	14,620	-	636,892,400

5 肉用牛肥育経営緊急支援事業（（独）農畜産業振興機構）公益

平成23年3月11日の東京電力株式会社、福島第一、第二原子力発電所の事故発生以降に収集された高濃度の放射性セシウムを含む稲わらが給与された肉用牛の牛肉から食品衛生法の暫定規制値を超える放射性セシウムが検出されたことにより、肉用牛肥育経営は、出荷の停止や自粛を求められたり、枝肉価格の低下から資金繰りが悪化し、経営の継続が困難となった。そのため、独立行政法人農畜産業振興機構からの肉用牛肥育経営に対する緊急支援金等が交付され、本年度は交付された緊急支援金等の返還業務を推進し、返還業務は終了した。

平成26年度肉用牛肥育経営緊急支援事業 緊急支援金返還状況

交付対象		返還対象		未返還対象	
頭数	金額	頭数	金額	頭数	金額
頭	円	頭	円	頭	円
13,047	652,350,000	13,047	652,350,000	0	0

VI 調査研究及び研修に関する事業

1 乳用種初生牛の経営に関する調査事業（（公社）中央畜産会）**その他**

畜産を取り巻く厳しい情勢の下、乳用後継牛及び肉用素牛の確保を図る上で、良質で安定した乳用種初生牛の生産が課題にあるため、乳用種初生牛の生産費用等について、酪農家10戸を対象に調査を行った。

調査飼養頭数規模	調査戸数	備 考
～29頭	4戸	本調査は酪農主要10道県の酪農家162戸を対象に実施 (千葉県10戸(6.2%))
30～49頭	2戸	
50頭～	4戸	
計	10戸	

2 国産畜産物安心確保等支援事業(快適性に配慮した家畜の飼養管理推進事業) (（公社）中央畜産会) **その他**

農林水産省が検討する新たな家畜改良増殖目標の策定に向けて、県内の家畜の飼養戸数及び飼養頭数を把握するため、家畜改良増殖技術実態調査を実施した。

Ⅶ その他

1 千葉県畜産物消費拡大推進協議会関連事業 その他

安全・安心等消費者ニーズに応える県産物の銘柄等を推進し「千葉ブランド」を県内・首都圏に向け千産千消・千産全消の確立を目指している生産者団体が船橋市船橋競馬場（船橋ふれあい広場）において千葉県畜産フェアを開催した。

また、他団体が開催したイベント等に積極的に参加しPR活動を実施した。

2 千葉県養蜂協会関連事業 その他

(1) 養蜂振興推進事業（県委託事業）

養蜂振興法に基づき、県外からの転飼者の調整を実施した。

また、蜜源植生状況調査、花粉交配実態調査、蜂蜜等生産量調査並びに寄生虫の発生状況調査を実施した。

(2) ポリネーション推進事業

県果樹連等と交渉し、梨花粉交配用蜜蜂を貸し出した。

(3) 販売対策事業

千葉県畜産フェアへの出展し、消費者へ養蜂や蜂製品に対する理解を深めた。（平成26年10月4日、船橋競馬場）

また、千葉県畜産賞「三里塚特別競走」の副賞として蜂蜜を提供した。

（平成26年10月29日、船橋競馬場）

(4) 蜜源増殖対策事業

蜜源植物の苗木（さざんか、椿、桜等）及び種子（菜種、レンゲ等）を共同購入し会員に配布、植栽を行った。

(5) 養蜂技術研修事業

獣医師の俵先生を講師に招き、「これからのヘギイタダニ対策」について講演いただいた。（平成27年3月24日、館山市 安房自然村）

(6) 防疫対策事業

ダニ駆除薬（アピスタン、アピバール）及び腐蛆病予防薬（アピテン）を共同購入し、会員に配布した。

(7) 養蜂飼料等斡旋物資対策事業

一般社団法人日本養蜂協会の斡旋による輸入免税砂糖等の共同購入を行い、会員に配布した。

3 馬事畜産振興推進事業 その他

- (1) 平成26年9月24日 船橋競馬場会議室において平成26年度千葉県馬事畜産振興協議会総会を開催し、平成25年度事業報告及び収支決算、平成26年度計画及び収支予算について審議・決議した。

- (2) 平成26年10月4日、千葉県競馬組合が実施する「ふれあい広場」へ

参加し、馬事畜産振興コーナーを設置し、ブックレット等の配布を行い地方競馬の普及啓発を図った。

- (3) 平成26年10月29日、船橋競馬場において、千葉県馬事畜産振興協議会と協賛して、冠レース・千葉県畜産賞「三里塚特別」を実施し、優勝馬関係者に対して賞状並びに副賞を授与した。

4 ナイス・ポーク・チバ推進協議会関連事業 その他

養豚経営の安定強化と産業の振興を図るため、生産者自らの資金拠出による活動の柱である、県産（国産）豚肉の消費拡大活動、養豚経営安定強化のための政策要請活動、後継者育成のための青年部活動に対し、協会として生産者の活動を支援するため事務を取り扱った。

実績

- ① イベント参加により県産（国産）豚肉の消費拡大推進
- ② 農水省との「養豚農業振興法」「PED対策」に関する情報交換
- ③ と畜場防疫体系化に関する要請
- ④ オーエスキ病清浄化のための推進支援
- ⑤ サポーター会員制度による県産（国産）豚肉のPR推進
- ⑥ 関東ブロックによる養豚振興のための情報交換参加
- ⑦ 東日本大震災支援のための募金活動
- ⑧ 組織強化のための会員加入推進
- ⑨ 生産性向上のための講習会、研修会の開催
- ⑩ 養豚経営安定対策事業（全国肉豚）の推進による会員加入指導
- ⑪ （一社）日本養豚協会（JPPA）との連携活動
 - ＊TPP交渉における差額関税制度の堅持と厳格運用の要請
 - ＊「養豚農業振興法」成立に向けた要請協力
 - ＊「養豚農業振興法」基本方針策定に向けた内容要請
 - ＊豚流行性下痢（PED）に関する要請
 - ＊トレサビリティーの推進に関する要請
 - ＊養豚におけるクラスター事業参加に向けた要請
 - ＊国産豚肉消費拡大推進イベントへの参加

5 千葉県自家検定推進協議会関連事業 その他

原種豚の確保と能力の高い種豚の改良を担う生産者に対し、PED対策として衛生対策を実施した。

6 ちば畜産レディースネットワーク関連事業 その他

畜種を越えた畜産に携わる女性のネットワークとして、平成19年3月に設立、会員は女性経営者をはじめ県関係機関・団体女性職員等の59名（内3賛助団体）で、会員相互の情報交換・研修・消費者交流等の活動への支援

等、事務を取り扱った。

- ① 情報交換会・研修会として、第1回では総会終了後、参加者全員から1分間のショートスピーチをいただき、日頃思っていること、経営内容の紹介、あるいはT P Pの状況等多方面にわたる意見・情報の交換を行った。
(7月1日・東金市 エストレーホテル)

第2回では、昨年に引き続き県外視察研修及び情報交換会を実施した。今回は6次産業化の先駆けである埼玉県日高市にある「埼玉種畜牧場(サイボクハム)」の視察並びに埼玉県の女性ネットワーク(畜産女性いきいきネットワーク埼玉)会員との交流会を行なった。サイボクハム自慢の料理を満喫し、笹崎社長の養豚への思いを伺い、参加者全員(30名)の思いのたけのスピーチ、場内見学、土産購入等充実した思い出に残る会となった。(11月11日・日高市 サイボクハム)

- ② 消費者交流として、千葉県畜産フェアに出展し「ミルクくずもち」の会場内での製造・無償配布したところ、800名以上の県民・消費者がレディースブースにいらっしやり、「おいしい・うまい・作ってみたい」と大好評、レディースネットワークの紹介文と「ミルクくずもち」のレシピを多くの方が持ち帰った。(10月4日・船橋市 船橋競馬場)

7 N P O法人いきいき畜産ちばサポートセンター関連事業 その他

畜産に係わる生産者等への支援や畜産振興に向けた消費者等との交流を図るために設立したN P O法人の会員は、団体含めて80名となった。

当畜産協会が行う下記の畜産支援事業や人材情報システム運営及び団体事務受託、消費者交流・動物情操教育事業について、その一部をN P O法人に委託、または協力を得て実施した。

(1) 畜産経営支援事業

- ・畜産情報収集・提供事業
- ・農場H A C C P認証普及推進支援対策導事業
- ・農場H A C C P認証審査体制基盤緊急整備事業
- ・野生獣衛生体制整備緊急対策事業
- ・馬獣医療実態調査
- ・千葉県エコフードコーディネーター設置事業
- ・地域畜産総合支援体制整備事業

(2) 人材情報システム運営及び団体事務受託

- ・千葉県農林水産就業相談会
- ・ちばフェルミエチーズネットワーク事務

(3) 消費者交流・動物情操教育事業

- ・千葉県畜産フェア「馬とのふれあい」ブック配布、「畜産何でも相談コーナー」設置
- ・畜産ふれあい体験交流研修会

8 千葉県肉用牛損害賠償請求生産者会関連事業 その他

東京電力福島第一原子力発電所の事故により、放射能物質により汚染された稲わらが流通し牛肉などに風評被害が出ている問題で、千葉県内の肉用牛生産農家が損害賠償請求を行うため、平成23年度に設立された「千葉県肉用牛損害賠償請求生産者会 会長 山崎 巖」の事務局を平成26年度も引き続き行い、県の指導と下記支援団体の協力を得て賠償請求を行った。

なお、平成25年8月分をもって肉用牛の逸失利益の賠償が終了し、平成25年9月分から放射能検査に係る費用の賠償に移行し第15次請求まで実施した。

<支援団体>

千葉県家畜商協同組合、千葉県肉牛生産農業協同組合、
千葉県配合飼料価格安定基金協会〔千葉県全日本畜産経営者協会〕、
社団法人千葉県農業協会（肉用牛部会）、株式会社千葉県食肉公社、
横芝光町（東陽食肉センター）、
県南畜産処理事業協同組合（南総食肉センター）

（1）請求状況

請求次	請求者数	請求金額（千円）	請求日
1	99	447,441	平成23年11月15日
2	109	562,226	平成23年12月28日
3	122	1,014,603	平成24年 3月30日
4	138	677,275	平成24年 9月 5日
5	94	328,062	平成24年10月17日
6	94	75,794	平成24年11月26日
7	114	112,417	平成25年 2月22日
8	99	56,434	平成25年 5月22日
9	93	28,302	平成25年 8月26日
10	66	8,609	平成25年10月21日
11	93	14,063	平成25年 3月11日
12	57	6,091	平成26年 5月19日
13	66	7,850	平成26年 8月27日
14	76	7,533	平成26年11月27日
15	80	10,359	平成27年 2月26日
計		3,357,059	

※第6次請求から肉用牛の肥育に係る請求方法が積上方式から下落率方式へ変更され全国統一の様式となった。

(2) 支払状況

請求次	支払者数	支払金額 (千円)	支払完了日
1	99	420,152	平成23年12月30日
2	109	534,553	平成24年 3月30日
3	122	1,134,984	平成25年 2月21日
4	138	673,651	平成25年 2月21日
5	94	324,433	平成25年 4月 2日
6	94	84,811	平成25年 8月23日
7	114	110,045	平成25年11月11日
8	99	55,088	平成25年11月11日
9	93	27,847	平成25年12月12日
10	66	8,542	平成26年 1月 8日
11	93	14,088	平成26年 8月 8日
12	57	6,091	平成26年 7月22日
13	66	7,850	平成26年10月28日
14	76	7,533	平成27年 1月19日
計		3,409,668	

※支払完了日は各請求次における最終支払者の日付である。

(3) 請求対象期間

請求次	期 間
1	平成23年 7月 8日～平成23年 9月30日
2	平成23年10月 1日～平成23年11月30日
3	平成23年12月 1日～平成24年 2月29日
4	平成24年 3月 1日～平成24年 5月31日
5	平成24年 6月 1日～平成24年 7月31日
6	平成24年 8月 1日～平成24年 9月30日
7	平成24年10月 1日～平成24年12月31日
8	平成25年 1月 1日～平成25年 3月31日
9	平成25年 4月 1日～平成25年 6月30日
10	平成25年 7月 1日～平成25年 8月31日
11	平成25年 9月 1日～平成25年12月31日
12	平成26年 1月 1日～平成26年 3月31日
13	平成26年 4月 1日～平成26年 6月30日
14	平成26年 7月 1日～平成26年 9月30日
15	平成26年10月 1日～平成26年12月31日

※第2次以降の請求については、未請求・請求漏れを含む場合がある。

9 チバザビーフ協議会関連事業 その他

(1) 県産牛肉ブランド力向上対策事業（県補助事業）

県産牛肉のブランド力向上に不可欠な出荷頭数の拡大と高品質化及び銘柄牛肉の知名度向上に努めた。

【チバザビーフ知名度向上対策事業】

①推進活動

総会（平成26年7月3日、マロウドインターナショナルホテル成田）及び理事会・専門部会（7月、9月、12月 旭市 ちばみどり農協本店会議室）を開催した。

②広報活動

千葉県畜産フェア（平成26年10月4日、船橋競馬場）への協賛、チバザビーフ枝肉共励会・前夜祭（平成27年2月23日、東京 第一ホテル品川シーフォート）でのPR活動等を行った。

また、各銘柄でのチバザビーフPR活動の支援を行った。

【チバザビーフ肥育技術向上対策事業】

①肥育素牛の導入

優良な肥育素牛の導入又は保留に対し、導入経費の一部を補助した。

黒毛和種 78頭（補助額 5万円／頭）

交雑種 68頭（補助額 2万円／頭）

計 146頭（対象農家戸数51戸）

②枝肉品評会の開催

千葉県肉牛生産者の研鑽の機会を創出し、飼養管理技術の向上を図るとともに、食肉流通業者等へ県産牛肉の知名度向上を図るため、集荷量日本一の東京中央卸売市場において枝肉共励会・研究会を開催した。

枝肉共励会 年1回（平成27年2月24日）

〈出品頭数〉黒毛和種 34頭、交雑種26頭 計60頭

枝肉研究会 年2回（平成26年7月9日、11月19日）

〈出品頭数〉黒毛和種 28頭、交雑種22頭 計50頭（7月）

黒毛和種 31頭、交雑種29頭 計60頭（11月）

10 チバザポーク販売推進協議会関連事業 その他

千葉県の銘柄豚肉出荷団体が連携しチバザポークの知名度向上と販売促進に努めた。

①連絡会議の開催

県産豚肉の知名度向上のための連絡会議を年4回開催した。

②農場HACCP講習会の開催

安全・安心な豚肉生産を図る為、農場HACCPの講習会を開催した。